

② 環境配慮の計画と実績の要約

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成23年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成23年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
1. 環境の保全に関する教育研究活動を推進する。		
<p>環境教育活動</p> <p>① あらゆる専門分野から環境問題への教育研究を進め、環境配慮に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>環境に関する多様な授業科目の充実</p> <p>(教育学部) 教育学研究科に設置している履修証明プログラム「地域の核となる理数系教員(コア・サイエンス・ティーチャー)養成課程」の講習で、「長崎県の自然A」,「長崎県の自然B」,及び「理科教材研究A」において自然放射線に関する講習を実施する。</p> <p>(経済学部) 3年生向けの専門ゼミにおいて実地体験型PBLのクライアント企業として環境関連企業を選定し、クライアントの研究から環境に関する意識を高めさせる。</p> <p>(薬学部) あらゆる専門分野において、環境に関する内容を含む多様な授業科目を充実させる。</p> <p>(環境科学部) 環境マネジメント論の講義において、学生研究室の環境監査を行う。</p>	<p>(教育学部) 教育学研究科に設置している履修証明プログラム「地域の核となる理数系教員(コア・サイエンス・ティーチャー)養成課程」の講習で、「長崎県の自然A」,「長崎県の自然B」,及び「理科教材研究A」において自然放射線に関する講習を実施した。</p> <p>教育学部の3年生を対象に選択科目「環境教育」を設け、自然環境、社会環境、文化環境に関心を持ち、環境に対する人の役割を明確にし、環境保全へ積極的に働きかける人を育成することを目的とした環境教育の重要性を明確に理解できる人材育成を行った。 附属中学校では、社会科等の教科で環境問題やエネルギー問題等について学習を行った。また、総合的な学習の時間の一つである「社会探究」においても幾つかの課題を設定し、環境問題等について学習を行った。</p> <p>(経済学部) クライアント企業として、風力発電メンテナンス企業、水質浄化装置開発・販売企業を選定し、これらの企業および関連団体との交流とその研究から環境に関する知識・意識を高めた。</p> <p>(薬学部) 専門科目の「環境衛生学」において、人口問題や環境破壊などの問題を含めた地球環境の現状とその生命への影響について講義を行った。 専門科目の「衛生薬学」において、生態系や生活環境の保全、維持に影響を及ぼす自然現象、人為的活動、環境汚染物質などに関する講義を行った。</p> <p>(工学部) 全学教育必修科目の教養特別講義において「安心・安全」教育に関わる授業を実施し、安全、環境、倫理等の授業内容を充実した。</p> <p>(環境科学部) 環境マネジメント論において、合理的な環境配慮行動と継続的に改善できる監査手法の取得に係る座学・実習を行った。 学内の講義において、学生の環境問題に対する意識を向上させるために環境法規の仕組みやその遵守の必要性を説明した。</p>

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成23年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成23年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
<p>環境研究活動</p> <p>② 多様な専門分野が連携した環境研究を遂行する。</p>	<p>環境に関する知識・理解を深めるためのワークショップや出前授等の開催</p> <p>(教育学部) 環境に関する知識・理解を深めるためのワークショップや出前授業等を開催する。</p> <p>(環境科学部) 長崎県と共同で環境監査の内部監査員養成研修を実施する。 環境科学部の EMS 学生委員会による学部の EMS 内部監査を行う。 引き続き、環境科学部に適合した環境管理マニュアルの充実を図る。</p> <p>環境をテーマとした研究の実施</p>	<p>長崎県の環境マネジメントシステム (EMS) の内部監査員研修を環境科学部と合同で開催した。同研修には、県庁職員に加えて、長崎大学学生と長崎県内の高校生も参加した。</p> <p>(水産学部) 教育内容の学際化、高度化及び国際化を推進し、安全・環境及び倫理等の内容を含む多様な授業を継続的に行った。</p> <p>(教育学部) 日本原子力学会シニアネットワークの協力の下、長崎大学エネルギー環境教育研究会ワークショップ2011「第3回原子力は未来を救えるか！～原子力って本当に必要な？～」を開催した。 JFP や教育実践総合センターの教育支援事業として、小学校への出前授業(省エネ教室、エネルギー環境教育)を実施した。</p> <p>(環境科学部) 長崎県と共同での環境監査の内部監査員養成研修を実施して、多くの環境科学部学生が参加し、県庁の模擬監査などを行った。 環境科学部の EMS 学生委員会によって、学部の EMS 内部監査が行われた。また、平成24年度からの新しい環境管理マニュアル作りにも参加した。 環境科学部環境管理マニュアルの全面的な見直しを行い、平成24年度改訂版の環境管理マニュアルを作成し、教職員及び EMS 学生委員会へ配付し、周知徹底を図った。</p> <p>(産学官連携戦略本部) 共同機器利用者を対象に、環境配慮に係わる諸注意を含む機器利用者講習会を開催した。 大学から排出される実験廃液の管理状況の理解を促すため、工学部応用化学科の学生を対象に実験廃液処理施設の見学会を実施した。</p> <p>(大学教育機能開発センター) 平成23年度学生便覧に、地球環境問題に対する課題及び本学の環境への取組内容を掲載した。 全学教育科目において「社会と歴史(緑地環境学)」、「暮らしと地球環境学」等、環境に関連する講義を実施した。</p> <p>(教育学部) 環境問題に関連する卒業研究を4件行った。 附属中学校と大学教員が連携して、地球温暖化防止活動の実践研究を行った。</p> <p>(工学研究科) 小型家電のリサイクルに関する調査、廃電気電子機器のリサイクルガイドラインの制定に向けての支援を行った。</p>

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成23年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成23年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
<p data-bbox="124 1084 264 1115">国際連携活動</p> <p data-bbox="124 1135 421 1227">③ 国際的環境研究・教育への協力、環境問題の相互理解と情報の共有を推進する。</p>	<p data-bbox="448 418 740 510">(環境科学部) 自治体の生ごみ資源化に関する研究を行う。</p> <p data-bbox="448 1135 740 1193">国際的環境をテーマとした教育の実施</p> <p data-bbox="448 1406 740 1464">国際的環境をテーマとした研究の実施</p>	<p data-bbox="767 351 1356 409">グリーンシステム創成科学専攻では、各種エネルギーの創成から利用技術についての講義と研究を行った。</p> <p data-bbox="767 418 1356 510">(環境科学部) 自治体の生ごみ資源化に関する研究を行い、その成果を出版した。</p> <p data-bbox="767 544 1356 604">島原市における硝酸性窒素による地下水汚染の調査を行った。</p> <p data-bbox="767 613 1356 669">東日本大震災の津波による水道水源の海水による汚染の調査を行った。</p> <p data-bbox="767 678 1356 734">大陸から越境飛来する大気中化学物質の微量分析とその生物影響評価を実施した。</p> <p data-bbox="767 743 1356 799">日本各地の河口域における内分泌かく乱化学物質による汚染評価を実施した。</p> <p data-bbox="767 808 1356 893">2011年5月14日(土)から15日(日)まで東京大学本郷キャンパスにて開催された日本哲学会第70回大会において「サステイナビリティの哲学」のテーマで共同討議を行った。</p> <p data-bbox="767 902 1356 1055">(水産・環境科学総合研究科) 夏季に底層水の貧酸素化が進行する閉鎖性内湾の一つである長崎県大村湾において、長崎大学の研究者を中心とした学際的な研究グループを組織し、貧酸素環境修復の実証試験に取り組んだ。</p> <p data-bbox="767 1202 1356 1290">(工学部・工学研究科) アジアキャンパス構想に基づいて国の日中韓の水環境技術者育成事業を実施した。</p> <p data-bbox="767 1299 1356 1386">(環境科学部) 台湾師範大学(台湾)との環境研究に係る学術交流協定及び同協定に基づく学生交流に関する覚書を締結した。</p> <p data-bbox="767 1471 1356 1624">(教育学部) 財団法人ユネスコ・アジア文化センターが実施した2011年ESD日米教員交流プログラムにおいて、長崎大学エネルギー環境教育研究会の活動紹介と教材による模擬授業体験、質疑応答を行った。</p> <p data-bbox="767 1632 1356 1753">(工学部・工学研究科) 長崎県の水処理企業の海外技術移転の支援を行った。中国の同済大学と、環境土木に関する国際シンポジウムを開催した。</p> <p data-bbox="767 1762 1356 1944">(環境科学部) 韓国・済州大学校と共同で、大陸から越境飛来する大気中化学物質の微量分析とその生物影響評価を実施した。環太平洋地域(オーストラリア、中国等)の沿岸河口域における内分泌かく乱化学物質汚染に関する国際共同調査を実施した。</p> <p data-bbox="767 1953 1356 2011">南京大学社会科学院と共同で、持続可能な東アジア交流圏の創造に関わる国際シンポジウムを開催した。</p> <p data-bbox="767 2020 1356 2078">(水産・環境科学総合研究科附属環東シナ海洋環境資源研究センター)</p>

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成23年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成23年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
<p>産学官連携活動</p> <p>④ 産学官連携による環境研究を推進し、その研究成果の社会への還元に努める。</p> <p>地域連携活動</p> <p>⑤ 環境保全等に関する知識・技術を発信し、地域との連携・コミュニケーションを推進する。</p>	<p>産学官連携による環境研究の推進</p> <p>環境保全等に関する知識・技術の発信及び地域との連携・コミュニケーションの推進</p> <p>(教育学部) 県や市、企業と連携し、公開授業等を実施する。</p> <p>(環境科学部) 学部に設置の環境教育研究マネジメントセンターは、雲仙Eキャンレジプログラムを推進する。</p> <p>学部に設置の環境教育研究マネジメントセンターは、季刊のニュースレターを刊行し、環境保全等に関するセンターの取り組み等を発信する。 福岡県大野城市のごみ分別授業で活用する教材作成の支援を行う。</p>	<p>第8回東シナ海の水生生物の繁殖に関する国際会議を開催した。 中国上海海洋大学・韓国済州大学校・台湾海洋大学と連携した海洋温暖化および環境ホルモン汚染の実態調査を実施した。</p> <p>(工学部・工学研究科) 「日中韓の大学間連携による水環境技術者育成事業」産学官コンソシアム説明会を開催した。 三菱商事によるエネルギー及び水に関する事業の講演会「グローバル時代のインフラビジネスと大学への期待」を開催した。</p> <p>(教育学部) 長崎県・長崎市教育委員会等と関係し、環境教育に関する教員研修を開催した。 長崎県・長崎市教育委員会と関係し、中学校の理科教員に対して放射線に関する研修を開催すると共に、公開授業を実施した。 九州電力(株)や西部ガス(株)と協働し、長崎市内等の学校でサイエンスワールド(出前科学実験教室)やエコクッキング教室を開催した。</p> <p>(工学研究科) 長崎県の水処理企業の海外技術移転を支援した。</p> <p>(環境科学部) 学部に設置の環境教育研究マネジメントセンターは、雲仙Eキャンレジプログラムや自治体が主催する地域教育に係るプログラムの策定等を行い、地域連携活動を推進した。 雲仙市小浜温泉における未利用温泉熱を利用したバイナリー発電プロジェクトに参画した。 学部に設置の環境教育研究マネジメントセンターは、季刊のニュースレターを刊行し、環境保全等に関するセンターの取り組み等を発信した。</p> <p>福岡県大野城市、筑後市でのごみ分別授業で活用する教材作成の支援を行い、教材を作成した。</p>

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成23年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成23年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
	長崎県内の高校生、大学生との環境活動に関する報告会を開催する。	<p>長崎県内の高校生、大学生と「第二回長崎県高校生・大学生環境会議」を開催し、交流を図った。新聞・テレビなどで報道された。また、報告書を作成し、それを県内の高校などに配付した。</p> <p>ゴミゼロながさき推進会議に学識関係の委員として参加した。</p> <p>長崎県庁と連携した EMS の外部評価を実施した。</p> <p>生ゴミ循環利用に関する研究成果について、西日本新聞で12回にわたって連載を行った。また、聖教新聞でも10回にわたって連載を行った。</p> <p>(産学官連携戦略本部)</p> <p>地域の高度人材育成事業(「長崎県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業による高度人材養成事業」)の一環として、長崎県職業能力開発協会と共同で環境分析技術研修を行った。</p> <p>(学生支援部)</p> <p>里山再生ボランティアにおいて環境保全活動を行った。</p> <p>市民の森クリーン作戦、秋の里山清掃ボランティアにおいて環境保全活動を行った。</p>
2. 学内におけるすべての活動に伴う環境への負荷を低減する。		
① エネルギー使用量の抑制、廃棄物の削減、資源のリサイクル等を積極的に推進する。	長崎大学地球温暖化対策に関する実施計画に基づく温室効果ガス排出量の削減行動計画の実施、廃棄物の削減、資源のリサイクル等の積極的な推進	<p>(教育学部)</p> <p>附属小学校児童会活動の一環として、ペットボトルキャップの回収に取り組んだ。</p> <p>附属中学校では、省エネルギー、省資源の行動実践に努めた。また、ペットボトルキャップの回収運動を通して、社会貢献や地球温暖化防止につながる ECO に対する関心・意欲の涵養に努めた。</p> <p>附属特別支援学校では、資源のリサイクル及び節電に積極的に取り組んだ。</p> <p>(経済学部)</p> <p>経済学部建物内の各部屋に温湿度計を設置することにより、教員、学生に節電に対する意識の強化を行った。</p> <p>講義室・演習室に加えて、今年度は更に大学院生室、各階リフレッシュルームにも遠隔で制御できる装置を組み込み、無駄な空調機の使用を抑えることができた。</p> <p>本館のエレベーター2機のうち1機を常時使用停止にすることにより、無駄な電力の消費をおさえることができた。</p> <p>(医学部)</p> <p>東日本大震災後、よりいっそうの節電を促すため、節電の具体策を記載した「医学部節電方針」を作成し、学内に掲示した。このことにより教職員・学生の省エネに対する意識の向上を図った。</p>

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成23年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成23年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
		<p>(薬学部)</p> <p>エコモニターを活用した電気・ガス・水道使用料の受益者負担方式を続行し、研究室単位での環境負荷低減の努力を続けた。 エレベーター利用の制限を励行した。 会議等の事務連絡を完全電子化した。 省エネルギー対策の文書やポスターを掲示し、学生、教職員への周知を図った。</p> <p>(工学部)</p> <p>省エネ推進委員会を開催し、夏場と冬場の省エネに努め、実質電力量を前年度より削減した。</p> <p>(水産学部)</p> <p>東日本大震災の影響による供給電力不足への対応及び被災地の復興支援に尽力するために、学部内において以下の様々な節電対策の強化を行った。 冷房の設定温度は28とし、定期的に設定の確認を行った。 エアコンのフィルタは、2週間に1回清掃することとし、日差しを受ける窓のカーテン又はブラインドを閉めることで冷房効果を高める工夫をした。 人のいない部屋及び不要な箇所の照明は、可能な限り消灯した。 エレベーターは、原則使用禁止とした。 パソコン等の事務機器は、使用していない時は、こまめに電源を切った。 パソコンの電源設定を省エネモードにした。 冷蔵庫の庫内温度設定を強から中にした。 使用していない電気機器のコンセントを抜いた。 学生に対して、省エネ(節電)対策を周知徹底し、リフレッシュルームの冷房の設定温度に注意を促した。</p> <p>(産学官連携戦略本部)</p> <p>実験廃液の削減や不明廃液の発生防止等と呼びかけた。 節電と呼びかけるステッカーの貼付等により、省エネに取り組んだ。</p> <p>(留学生センター)</p> <p>研究室を離れる際や昼休み等における照明を消灯した。 クーラー等を極力使用しない、また使用時は設定温度に気を付けた。 夏季の軽装(クールビズ)を実施した。 両面コピーの推進及びミスコピー用紙の積極的活用を励行した。</p> <p>(病院)</p> <p>エネルギー使用量の抑制を図った。 病棟南面(5階~13階)に遮熱フィルムを貼り、空調負荷を削減することで省エネ効果を図った。 本館改修工事及び国際医療センター改修工事において外壁サッシにペアガラスを採用し、断熱効果を高め省エネを図った。 本館Ⅱ工区改修工事に伴い、高効率変圧器やLED照明器具の採用により省エネを図った。 ・変圧器による省エネ効果 消費電力67,671kWh/年 ・LED照明器具採用によるHf(12W)換算での省エネ効果 消費電力3,591kWh/年</p>

環境配慮の方針 項 目	長崎大学平成23年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成23年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
	<p>(附属図書館)</p> <p>学長・副学長会議の運営体制を整え、その役割等について明確化する。</p> <p>グリーン ICT 化の中長期計画の情報設備、データセンターに主要サーバ類の集中管理化を推進する。</p> <p>グリーン ICT 化の中長期計画の情報設備、各種個別サーバを仮想サーバ24台への集約化しデータの高速度化及びサーバの省エネ化を推進する。</p> <p>(情報メディア基盤センター)</p> <p>本センターの利用者(学生及び教職員)に対して、コピー用紙利用枚数削減について引き続き周知を推進する。</p> <p>データセンターへ機器の移設を行い、空調など電力使用量の削減を行う。</p> <p>新たに導入する学生用 PC について、消費電力の少ない CPU を搭載したエコモデルとする。</p> <p>老朽化した照明機器を、省エネタイプに切り替えを行う。</p>	<p>特高受変電設備改修工事において、高効率の特高変圧器を採用することで省エネを図った。</p> <p>・省エネ効果 消費電力385,225kWh/年</p> <p>事務室内各照明器具にブルスイッチを設け、使用時以外の消灯に努めることで省エネに貢献した。</p> <p>・省エネ効果 消費電力1,3kWh/年</p> <p>イントラネット上にオンラインで電力消費推移が棟別に分かる電力速報システムを設け、省エネ意識の高揚を図った。</p> <p>事務室で使用中の電化製品(電子レンジ、食器乾燥機等)は不使用時の待機電力をカットするためコンセントを抜くことで省エネを図った。</p> <p>省エネ効果 消費電力52,049kWh/年</p> <p>定時退庁日を設け、事務室内使用時間を短縮することで省エネに貢献した。</p> <p>・省エネ効果 消費電力164kWh/年</p> <p>定期的に省エネパトロールを行い、省エネの指導を実施し、省エネの推進に努めた。</p> <p>病室系統外調機、送排風機の間欠運転により省エネを図った。</p> <p>・省エネ効果 消費電力58,860kWh/年</p> <p>(附属図書館)</p> <p>「役員会」「役員懇談会」「学長・副学長会議」にペーパーレス会議システムを導入し、年間約8万8千枚の紙の削減を行った。</p> <p>事務局、情報メディア基盤センター、附属図書館、工学研究科、医学部等の約190台のハード類を集約し、年間約50,000kWhの消費電力を削減した。</p> <p>各種個別サーバ27台を仮想サーバへ集約化し、サーバの省エネ化を推進した。</p> <p>(情報メディア基盤センター)</p> <p>データセンターにネットワーク関連機器や e - Learning 用サーバの移設を行い、本センターシステム室の空調を停止するなど、電力使用量の削減を行った。</p> <p>本センターの利用者(学生及び教職員)に対して、コピー用紙利用枚数削減について引き続き周知を推進した。</p> <p>新たに導入した学生用 PC185台について、消費電力の少ない CPU を搭載したエコモデルとした。</p> <p>老朽化した照明機器を、人感センサー付き省エネタイプなどに切り替えた。</p>

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成23年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成23年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
<p>② 環境関連法規、規制と学内規定等を順守する。</p> <p>③ 環境汚染を予防し、キャンパス内の環境の保全・改善を図る。</p>	<p>環境関連法規、規制と学内規定等の順守</p> <p>環境汚染を予防し、キャンパス内の環境の保全・改善の推進</p>	<p>(アドミッションセンター) 昼休みの消灯を実施した。 アドミッションセンター内の各扉に「冷暖房使用中のためドアを閉めて下さい」と掲示し、節電に対する意識の向上につとめた。 裏紙を利用する等、紙の再利用を行った。 各人のプリンター設定を「白黒印刷」に設定した。</p> <p>(総務部) 夏季における連続休暇の取得促進を通知した。 夏季における軽装の励行を通知した。</p> <p>(施設部) 昼休み一斉消灯、外光を利用した窓際照明の消灯を実施した。 プルスイッチ付照明器具による離席時に消灯を行った。 出勤時の外気取込みによる空調負荷低減を行った。 スイッチ付 OA タップ導入による OA 機器等の夜間待機電力削減を実施した。 両面コピー等を徹底した。 施設整備において高効率型の照明器具・空調機器や節水型便器等を導入した。 電力使用状況の見える化を図るため電力速報システム導入の推進を実施した。</p> <p>(学術情報部) サーバ類の集約化を行い、エネルギー使用量を抑制した。 会議資料のペーパーレス化に伴う資源使用量を抑制した。</p> <p>(学生支援部) 本学サークルが大学構内放置自転車を回収、修理、有効活用を実施した。また、近隣大学と協同でコンテストに参加した。</p> <p>(環境科学部) ISO14001環境科学部環境管理マニュアルを改訂し、環境マネジメントシステム環境管理マニュアルとして整備するとともに、当該マニュアルの環境方針に基づき活動をするよう教職員・学生への周知を図った。</p> <p>(産学官連携戦略本部) PRTR 法に対応するため、化学物質取扱量の調査を行い、「環境報告書」等で公表した。</p> <p>(教育学部) 附属中学校では、緑溢れる校地とするため生徒参加型の草花植栽を実施した。併せて、環境美化に努めるとともに、緑地保全の推進を図った。</p> <p>(経済学部) 学生の使用する課外活動施設の音楽練習室の防音設備を再整備(2重サッシ)することにより、本学教員および、地域住民への騒音への配慮を行った。</p>

環境配慮の方針 項目	長崎大学平成23年度計画 (環境配慮に係る項目)	平成23年度実績概要 (環境配慮に係る項目)
	<p>(薬学部)</p> <p>国際規制物質、毒劇物及び病原体等の使用状況等を検証し、化学物質・薬品類の安全管理を励行する。</p> <p>廃液の分別等を徹底し、環境汚染の予防に努める。</p>	<p>(薬学部)</p> <p>国際規制物質は、集中して、厳格な管理を続行した。毒劇物及び病原体等は、法令並びに学内規定を遵守して使用した。</p> <p>薬学部安全衛生委員会において、化学物質・薬品類の使用状況を点検した。</p> <p>廃液の分別を徹底し、有機廃液等の保管管理を引き続き徹底した。</p> <p>(工学部)</p> <p>学内に、掲示板、電子掲示板を通じて、省エネ、ゴミの処理について配慮することを徹底した。</p> <p>(産学官連携戦略本部)</p> <p>学内の実験廃液の分別貯留の徹底を図った。</p> <p>学内からの排水を定期的にチェックし、基準値を超えないように改善対策を依頼するとともに、必要に応じて対策の相談に応じた。</p>
3. 大学運営システムの一部としての環境マネジメントシステムを構築し、定期的に見直すことによって、継続的改善を図る。		
	<p>省エネルギー対策を行うための仕組みの整備及び省エネルギーの組織的な推進</p>	<p>学内に省エネルギーの推進を行うための仕組みとして平成23年1月25日に「長崎大学におけるエネルギーの使用の合理化に関する規程の運用要領」を制定し、その中でエネルギー管理を実施する組織を構成し、各部局に省エネルギー推進員を配置した。</p> <p>平成23年8月上旬に「長崎大学における夏の省エネ対策」に基づき、各部局における省エネの目標設定や空調運転状況について省エネルギーパトロールを行った。</p>
4. 環境配慮の方針及び環境配慮等の状況を、本学ホームページ上に公表することによって、本学構成員に周知し環境配慮の意識向上を促すとともに、社会への説明責任を徹底する。		
	<p>環境報告書のホームページ上への公表</p>	<p>環境報告書をホームページ上に公表した。</p> <p>(工学研究科)</p> <p>工学研究科の教育支援部で23年度からの適切なエネルギー使用のために、工学部1号館の電力使用量データを施設部HPより取得し、その推移をグラフにしてWEBで公開した。</p>